



も み じ

第4号

【ホームページ】<http://akihaku-dai1.city-niigata.ed.jp>



～ザクロの花～

愛児会とともに

愛児会有志の皆さんが文庫室の整理をしてくださいました。

子どもに人気の絵本は数冊あるため、子どもが取り出しやすいように絵本の冊数を少なくしたり、絵本の表紙が見えるように展示してくださいました。そして、6月18日に新津美術館で開催されている「おでかけ！絵本ミュージアム」へ出掛ける子どもたちのために、展覧会で展示される絵本を子どもの目線に合わせて背の低い本棚にしつらえていただきました。

絵本を借りにくる子どもたちは、文庫室の入口に入ると、すぐに目に入る絵本を手にとっていました。子どもの興味、関心を捉えた準備が効果てき面でした。そんな子どもたちの姿を見ながら、なかなか文庫室の整理ができずにいたことを反省しつつ、愛児会の保護者の皆さんの「子どもたちのために」という熱い思いをうれしく感じました。

当園の学校運営協議会でも、愛児会の皆さんと子どもたちのためにできることをしていくことで、保護者と教職員の WIN-WIN の関係が構築され、互いにやりがいを感じることができることこそが、Well-being につながるのではないかとお話をさせていただきました。

また、昨年復活した『たけのこ』のリーフレットも現在、保護者の皆さんが作成中です。これは、我が子の好きな絵本を紹介するものです。もちろん先生たちも一員です。その年によって形式は変わっていきますが、そこがミソ！リーフレットを通して、今まで知らなかった絵本にふれて借りてみたいと思うかもしれません。おうちの方も他学年の子どもの名前を覚えて声を掛けるきっかけになるかもしれません。『たけのこ』が完成するまでにはご苦労があるかもしれませんが、幼稚園の親子にとっても先生方にとっても良いことだらけです。これまで発行された『たけのこ』の中には、子どもが描いた絵を掲載したこともあるそうで、「幼稚園時代に描いた絵が載っているから捨てられないんですよ。」と、修了児の保護者からお聞きしました。

「おでかけ！絵本ミュージアム」へ行ってから数日後、雨の日がありました。もみじ組の子どもたちが傘をさして園庭へ出かけていきました。展覧会で観た『雨、あめ（ピーター・スピアー）』の絵本に描かれていることを確かめているような会話が聞こえてきました。水たまりに雨粒の波紋がまあるく広がること、水たまりに思いっきり入ったらどうなる？等々、絵本を通して知り得たことをその子なりに感じ取りながら、感性が研ぎ澄まされていくのだろう…と。そんな様子を園長室から眺めていました。素敵な光景でした。



有志の皆さんが絵本の冊数を調整



表紙が見えるように展示



入口からすぐに見える場所に絵棚設置



「雨、あめ」（評論社）



雨の日の散歩、もみじ組さん！